

# サイレージ用の短穂性水稻品種を栽培している方へ (たちすずか、つきはやか、つきあやか、つきすずか等)

たい肥施用が地域のイネカメムシ対策につながります！

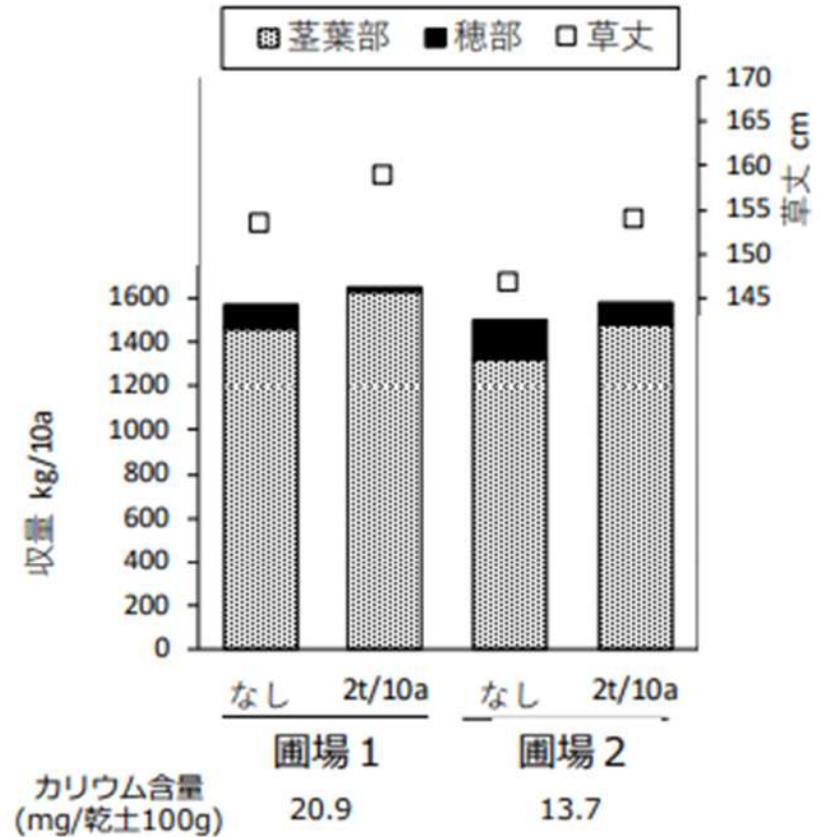
サイレージ用の水稻では、粃は牛が消化できない無駄な部分のため、穂を対象にした防除は一般的に行われません。しかし、これらの品種は主食用米よりも晩生のため、主食用米のほ場から移動してきたイネカメムシが冬越しするためのエサ場となってしまう可能性があります。

これらの品種はもともと穂が少ないのですが、株全体をほ場から持ち出すため**連作するとカリウムが欠乏し、穂の割合が増えてきます。そこで、栽培前に牛ふんたい肥を 2t/10a程度施用することで穂部の割合を減らすことができ、生産性も向上します。**収量確保とイネカメムシ対策のために、たい肥施用で地力を保ちましょう。

麦類を栽培している場合は、茎立前の2月末頃までなら踏んでも問題ないので大型機械で散布できます。



図 つきすずか連作ほ場におけるたい肥施用効果



- ・基肥はオール14で窒素換算10kg/10a施用。
- ・連作回数3、4回の圃場に粃殻牛ふん堆肥(めめま堆肥くん)を施用して試験。
- ・埼玉県農業技術研究センター玉井試験場 2019年の気象経過の場合。
- ・収量は風乾重。

高糖分高消化性  
イネホールク  
ロップサイレー  
ジ生産・利用の  
手引き(2020)  
より抜粋